

2025年度【観光まちおこしプロジェクト2025】プロジェクトC 活動報告

観光まちおこしプロジェクトCは、2017年度に開催された「全国大学生まちづくりコンテスト 多摩川ステージ」に出場した本学プロジェクトAチームの提案をきっかけに事業化された取組です。「多摩川の堤防刈草を燃料（ペレット）へと変換し、地域のみんなで、まちづくり施策の一環として継続していく」という学生の提案を軸に、国土交通省、河川財団、川崎市をはじめとする多様な関係機関との連携のもと、毎年さまざまな実践や試みを重ねてきました。

本活動は今年度で9年目を迎え、多摩川の堤防刈草という身近な地域資源を活かし、環境保全や資源循環、そして地域参加型のまちづくりを実践的に学ぶプロジェクトとして継続してきました。今年度は、これまで大切にしてきた「地域住民への認知度向上」に加え、「刈草ペレットのさらなる実用化の可能性研究」を新たなテーマとして掲げ、より一步踏み込んだ研究活動に取り組みました。5月のキックオフ以降は、刈草ペレットを原料とした紙づくりの研究を中心に、キャンパスでの講義と、ペレット製造や紙すき実験を並行して実施しました。



また、年間を通じた取組の成果を地域の方々に直接お伝えする場として、例年参加している地域イベント「丸子の渡し祭り」（10月13日）に今年も出展。昨年も大好評だったペレット燃料で焼き上げた「川越の焼き芋」の販売や、ペレット紙漉き体験、活動展示を行い、多くの来場者に足を止めいただき、本学の取組やその意義を身近に感じていただけた機会となりました。さらに今年は、長年にわたる本活動が評価され、祭り主催者より感謝状をいただくことができました。地域の皆さんに支えられながら続けてきた歩みが形となって表れた出来事であり、学生にとっても大きな励みとなりました。

本プロジェクトは、地域・外部関係者・学生が一緒になって学び、考え、実践していくことを大切にしています。今後も多摩川の環境や地域の魅力に向き合いながら、地域に開かれた観光地域づくりを進めています。

